

決算説明会

2009年3月期

株式会社シンプレクス・テクノロジー
(東証一部：4340)

www.simplex-tech.co.jp

進行

2009年3月期決算概要

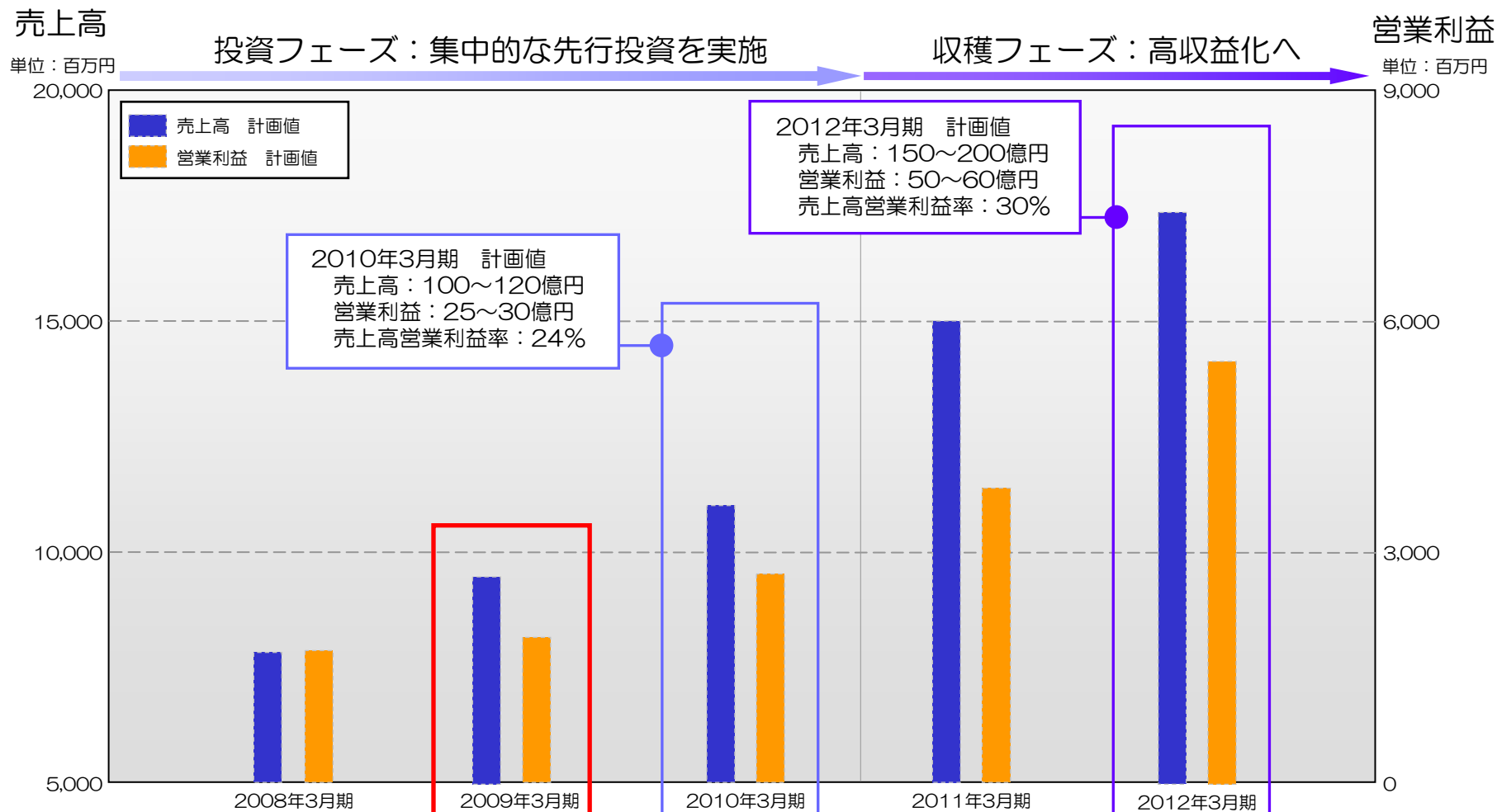
2010年3月期決算見通し

第二次中期事業計画 進捗状況

2009年3月期決算概要

第二次中期事業計画概要

第二次中期事業計画 計画値 (2006年11月策定)



※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。投資コストは各会計年度で費用化することを前提としています。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

2009年3月期決算サマリ




2009年3月期は売上高：105億円、営業利益：25億円を期初予想としてスタートをきる


| | |
|-----------|---|
| 売上高 | 期初予想※を大幅に上回り金融フロンティア分野で独走 |
| 売上総利益率 | SIの利益率の低下に加え、利益率の低いその他（物販）の売上高構成比の高まりを受けて、全体の売上総利益率が低下 |
| 販管費内研究開発費 | 中期計画の約1年前倒しのペースで立ち上がるUMS事業に対し計画を上回る先行投資を実施 |
| 営業利益 | 売上総利益率の低下に加え、計画を上回る先行投資の影響で売上の伸びと比べて利益の伸びが小さくなるものの、計画値を達成 |
| 当期純利益 | 投資有価証券評価損、特定案件の仕掛品評価損の計上により計画値未達 2002年の上場以来、初めての減益となる |
| 受注残高 | 順調に積み上がる |


※2009年3月期売上高見通しは、105億円から115億円に上方修正しています。（2009年1月28日）

2009年3月期決算実績（連結）

| 単位：百万円 | 2008年3月期実績 | 2009年3月期実績 | 増減 | 前期比 |
|------------|---------------|---------------|-------|--------|
| 売上高 | 8,128 | 11,942 | 3,813 | 46.9% |
| 売上総利益（率） | 3,673 (45.2%) | 4,959 (41.5%) | 1,285 | 35.0% |
| 販管費（率） | 1,592 (19.6%) | 2,436 (20.4%) | 844 | 53.0% |
| 内 研究開発費（率） | 364 (4.4%) | 942 (7.8%) | 578 | 158.7% |
| 営業利益（率） | 2,081 (25.6%) | 2,522 (21.1%) | 441 | 21.2% |
| 経常利益（率） | 2,074 (25.5%) | 2,484 (20.8%) | 410 | 19.8% |
| 当期純利益 | 1,234 | 1,189 | △45 | △3.7% |
| 従業員数：期中平均 | 193 | 234 | 41 | 21.2% |

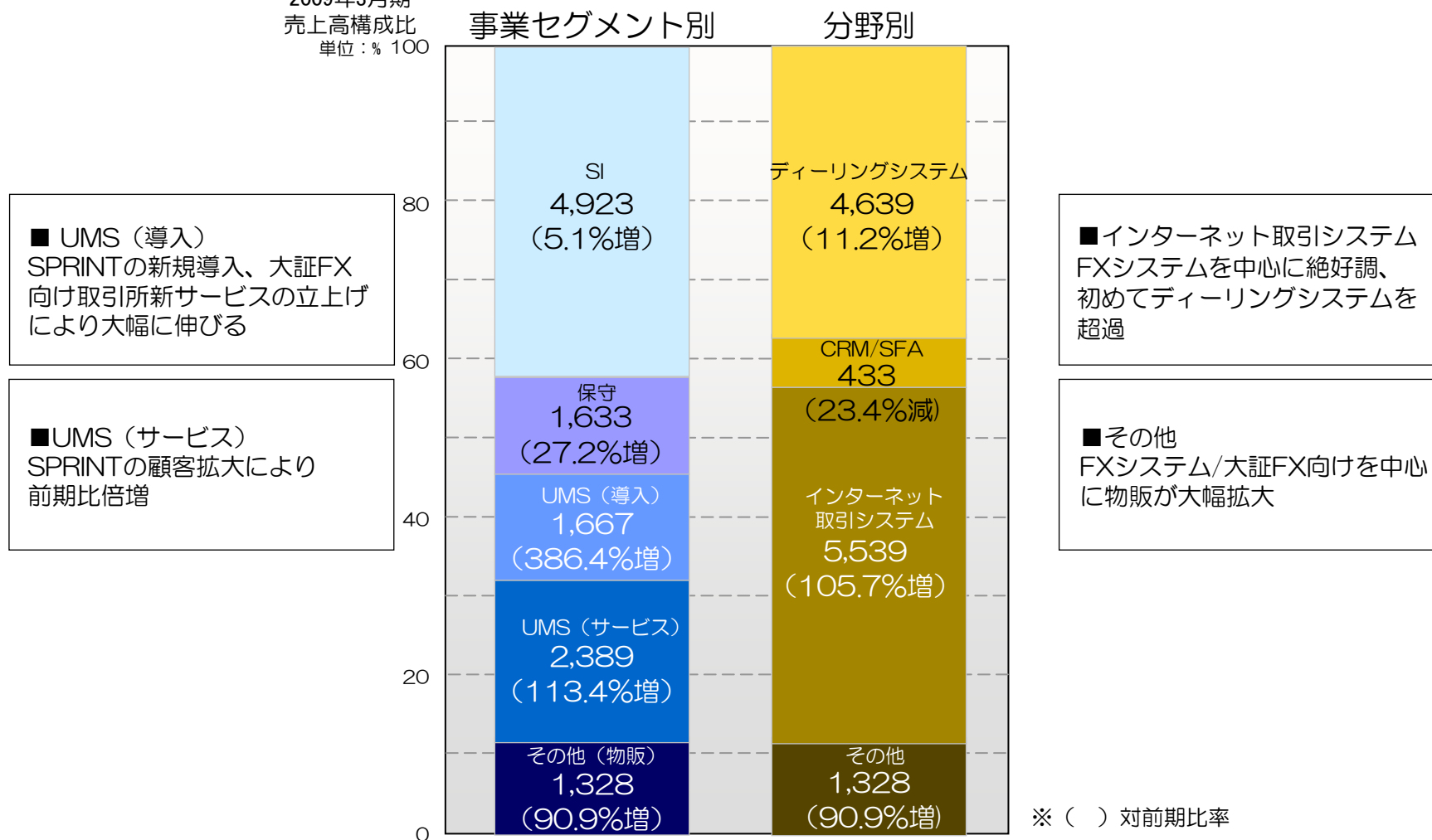
 売上高 前期比 46.9%増の大幅躍進

 売上総利益率の低下や積極的な先行投資の影響を受け、売上高よりも伸びが小さくなり、
営業利益 前期比21.2%増

 特別損失6.3億円を計上した影響で、当期純利益 前期比 3.7%減

売上高の増減要因

2009年3月期
売上高構成比
単位：% 100





※FXとは、外国為替証拠金取引を指します。大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月に創設を予定している取引所FXを指します。
 ※SPRINT (スプリント) は、当社が金融機関向けに展開する個人投資家向けインターネット取引システムの名称です。


売上総利益率の増減要因



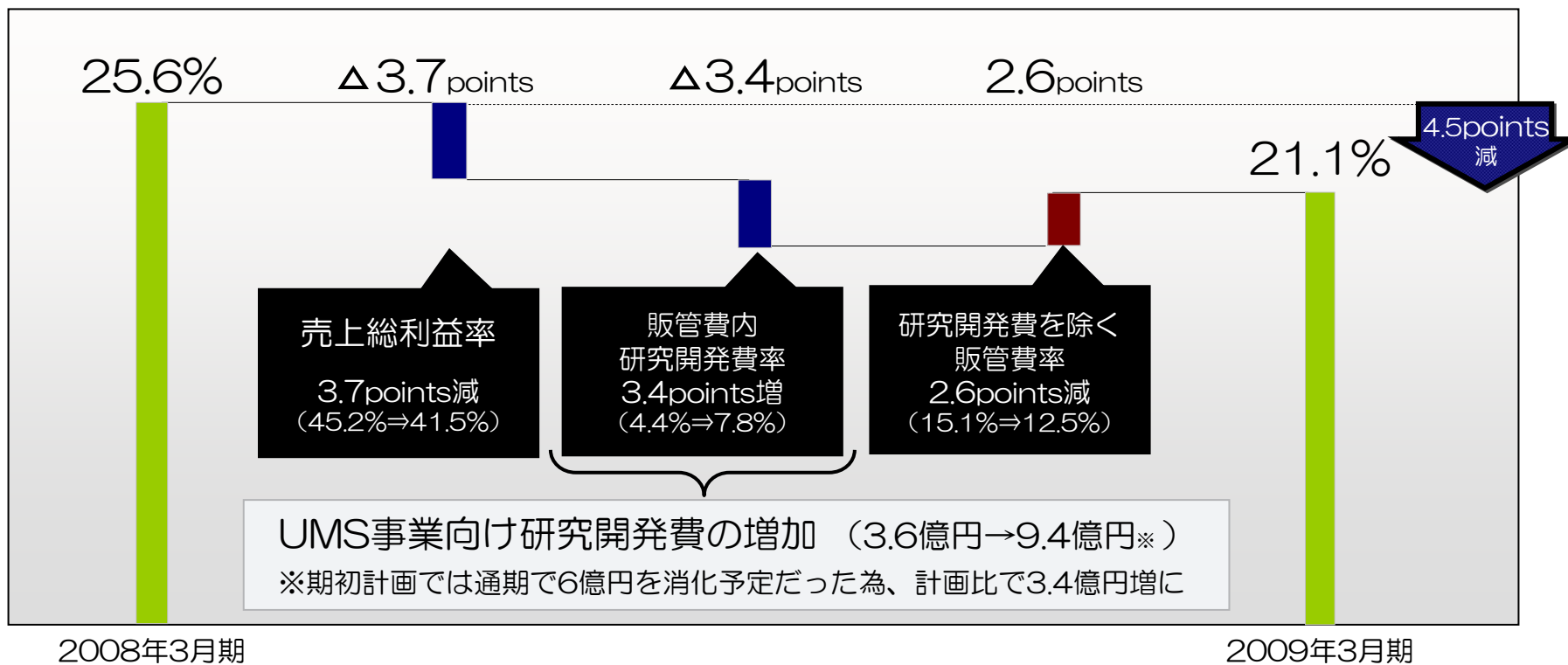
| 単位：百万円 | 2008年3月期 売上高（利益率） | 2009年3月期 売上高（利益率） | 前期比 増減（増減） |
|------------------------|----------------------|----------------------|-----------------|
| システム・ インテグレーション(SI) | 4,686 (47.2%) | 4,923 (37.5%) | 236 (△ 9.7P) |
| 保守 | 1,283 (59.9%) | 1,633 (54.7%) | 349 (△ 5.2P) |
| UMS（導入） | 342 (△7.7%) | 1,667 (42.1%) | 1,324 (49.8P) |
| UMS（サービス） | 1,119 (56.4%) | 2,389 (52.8%) | 1,269 (△ 3.6P) |
| その他（物販など） | 696 (13.0%) | 1,328 (19.2%) | 632 (6.2P) |

 売上急増に対して開発人員が逼迫しプロジェクト管理の甘さが露呈、SIの利益率が想定水準（40%程度）を下回る
一方、前期に大きく上ブレした保守の利益率が想定水準（55%程度）に戻る

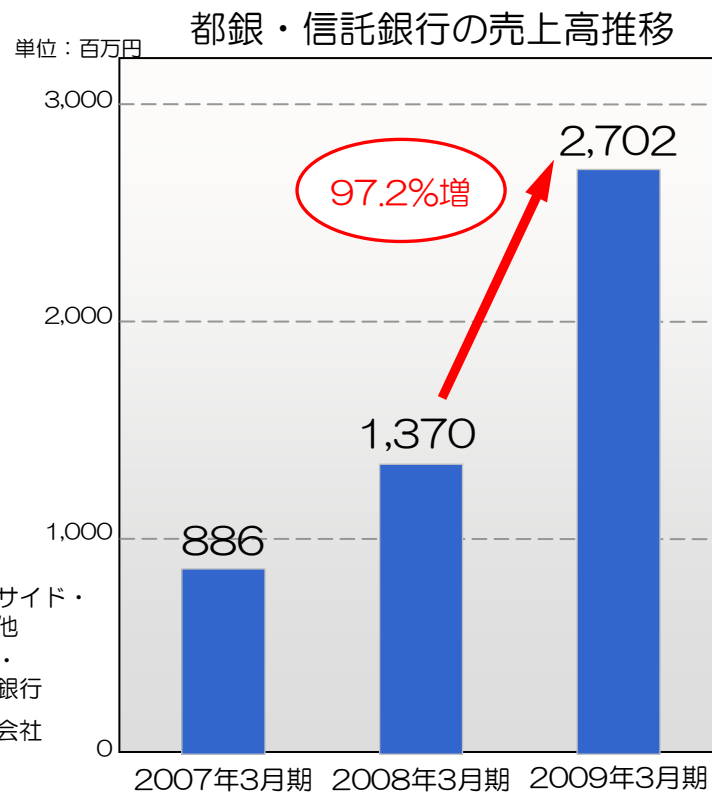
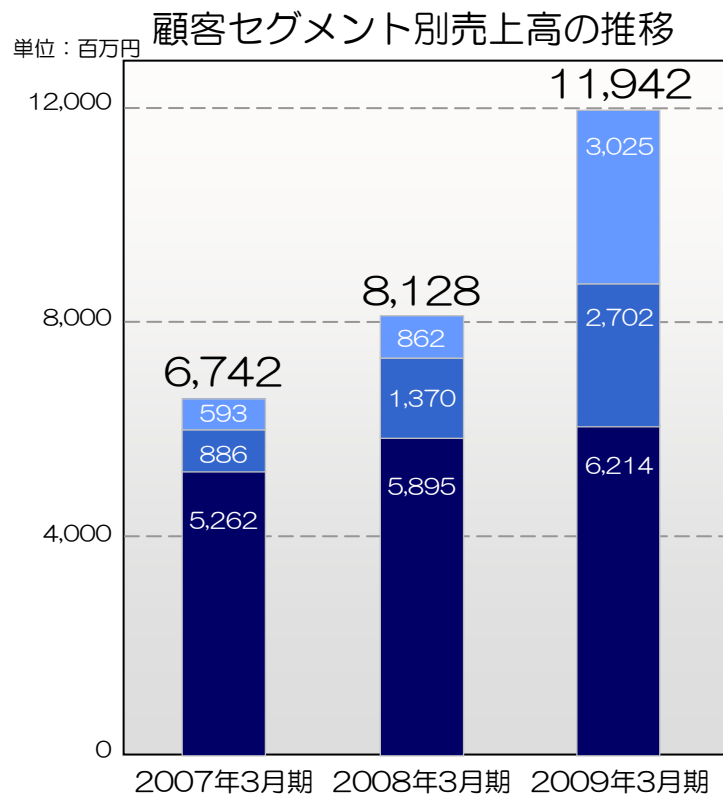
 先行投資部分を研究開発費（販管費）に計上しているため、UMS（導入）の利益率は想定水準（40%程度）に大幅回復

 利益率が低いその他（物販）の売上高構成比が高まったため、全体の利益率を押し下げる

売上高営業利益率の増減要因



顧客セグメント別売上比率



都銀向け売上高が順調に増加（前期比：97.2%増）
証券会社偏重の体質を脱却



FX専業業者/大証を中心に、バイサイド・その他向け売上高が大幅増※（前期比：250.9%増）

※ FX専業業者、取引所向け売上高は「バイサイド・その他」に分類しています。

2009年3月期決算トピック

自己株式の取得：2009年3月期中に2回実施

■期中取得総額：1,119百万円

■期中取得株式数：25,929株

⇒2009年3月末現在の自己株式取得総数：41,085株（発行済株式数に対する割合：6.9%）

特別損失の計上（636百万円）と役員賞与の全額カット

■投資有価証券評価損：345百万円

時価が著しく下落している投資有価証券の減損処理を実施したもの

■仕掛品評価損：230百万円

顧客側の事情により開発を停止している開発途中のプロジェクトがあり、今後の継続可能性及び代金回収の確実性を見積もった結果、当該プロジェクトの仕掛品残高全額を評価損計上したもの

⇒経営責任を明確化するため、当期限りの措置として役員賞与を全額カット

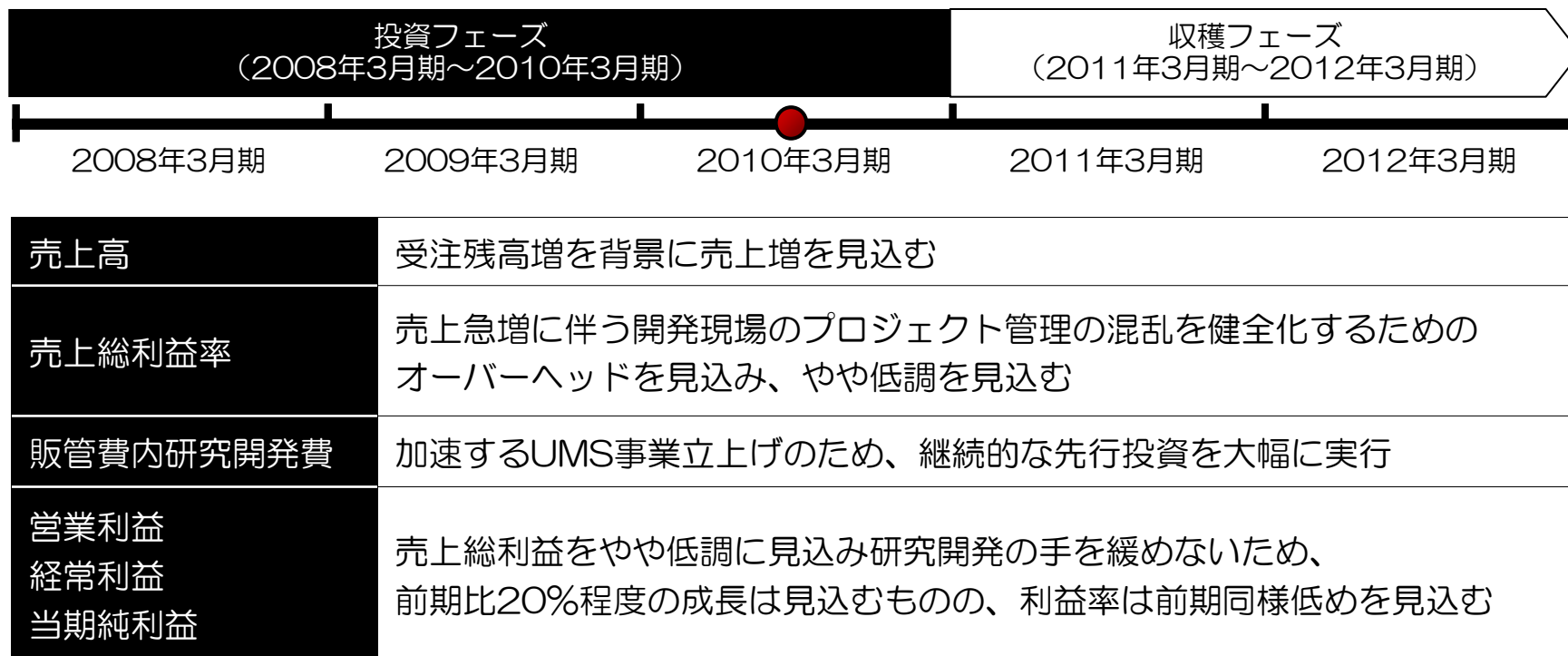
採用教育：2008年4月入社 新卒37名

■シリコンバレーでの金融トレーニングを含む3ヶ月の集中研修を終え、2QよりOJTへ

■なお、2009年4月には新卒社員は63名が入社

2010年3月期決算見通し

2010年3月期決算見通しのポイント



2010年3月期決算見通し（連結）

| 単位：百万円 | 第2四半期 | | | 通期決算 | | |
|-----------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | 実績 | 見通し | 前年同期比 | 実績 | 見通し | 前期比 |
| 売上高 | 5,401 | 6,440 | 19.2% | 11,942 | 14,500 | 21.4% |
| 売上総利益 | 2,284 | 2,597 | 13.7% | 4,959 | 6,387 | 29.0% |
| 販管費 | 1,323 | 1,691 | 27.8% | 2,436 | 3,357 | 37.8% |
| 内 研究開発費 | 494 | 700 | 41.7% | 942 | 1,200 | 27.3% |
| 営業利益 | 960 | 905 | △5.8% | 2,522 | 3,030 | 20.1% |
| 経常利益 | 914 | 890 | △2.7% | 2,484 | 3,000 | 20.8% |
| 当期純利益 | 527 | 507 | △3.9% | 1,189 | 1,810 | 52.2% |
| 従業員数：期中平均 | — | — | — | 234 | 312 | 33.3% |

第2四半期

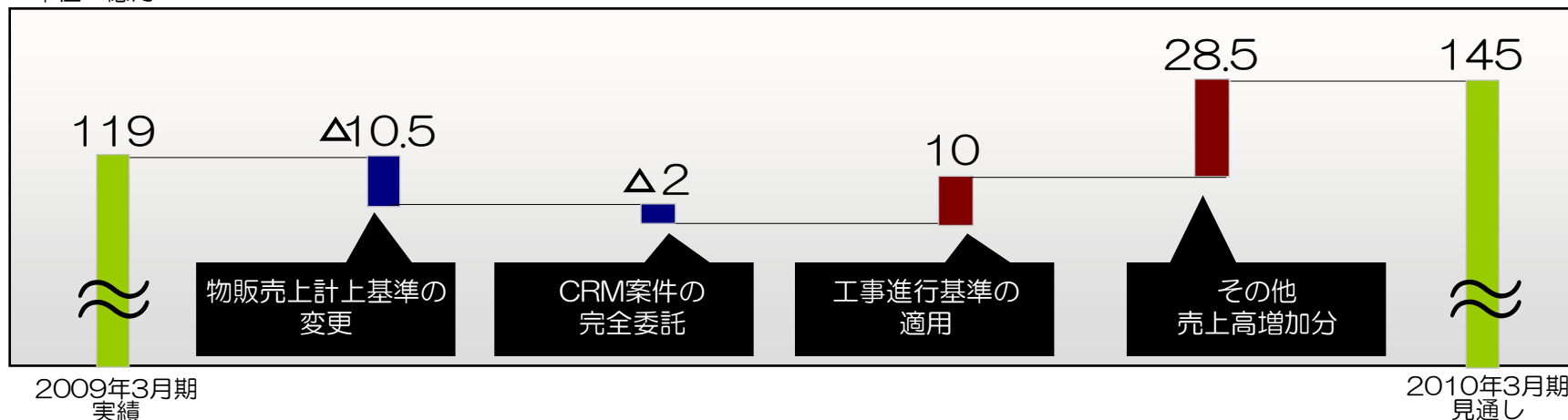
2009年4月入社の新卒63名に対する6ヶ月間の集中研修と大証FXスタート延期（5月→7月）の影響を受け、前年同期実績から利益が微減となる見通し

通期

通期業績見通しを達成した場合、第二次中期事業計画における2010年3月期業績目標の上限値（売上高：120億円、営業利益：30億円）を達成できる見通し

2010年3月期決算見通し（その他業績に影響を与える事項）

単位：億円



物販売上を総額表示から手数料部分のみを計上する純額表示に変更
⇒見込売上高/見込売上原価がそれぞれ約10.5億円減少する見込み（利益への影響はなし）



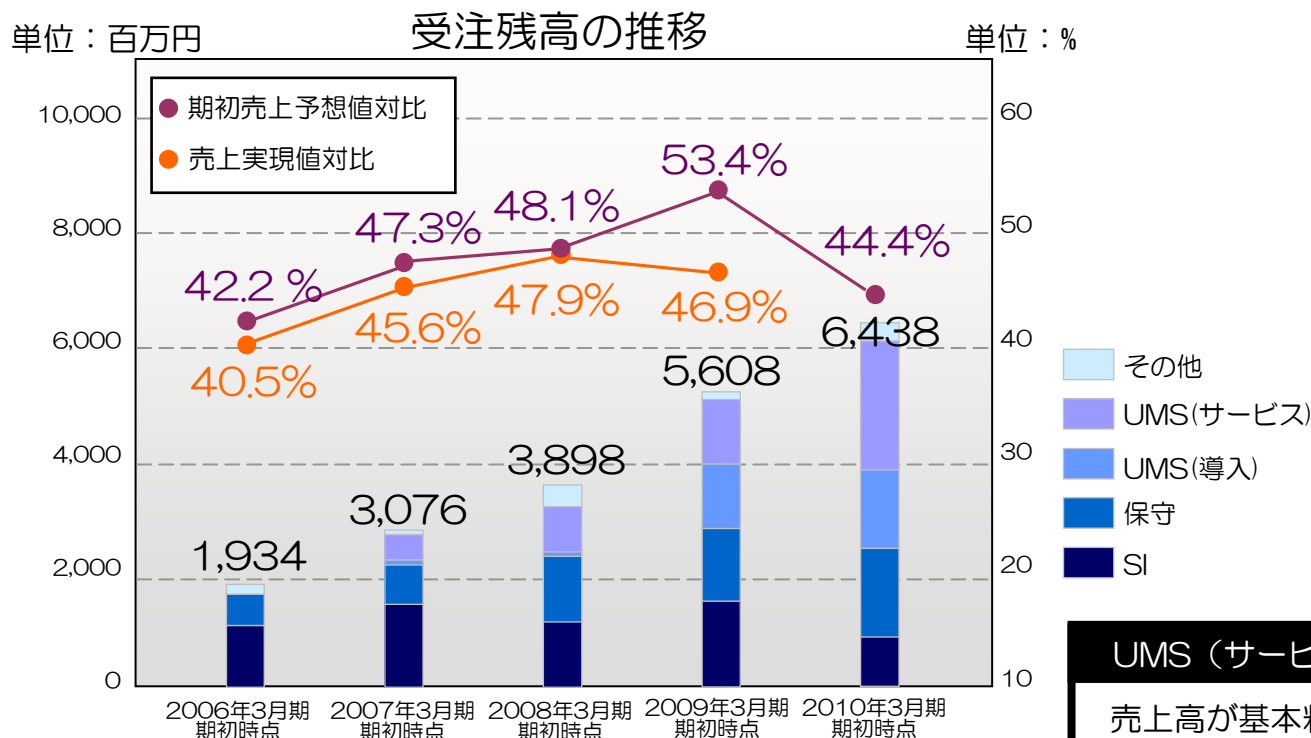
事業の選択と集中の観点から、CRM案件をバーチャレクス・コンサルティング※に完全委託
完全委託に伴い、手数料部分のみを「その他（物販）」に売上計上
今後、分野別売上での「CRM/SFAシステム」の категорияは消滅
⇒見込売上高/見込売上原価への影響は軽微



SIとUMS（導入）売上計上基準を原則として検収基準から工事進行基準に変更
⇒見込売上高で約10億円増加する見込み

※バーチャレクス・コンサルティングは、当社の持分法適用関連会社です。
※上記3つの変化要因は、あくまで概算レベルの推定です。

受注残高



| | 2006年3月期 期初時点 | 2007年3月期 期初時点 | 2008年3月期 期初時点 | 2009年3月期 期初時点 | 2010年3月期 期初時点 |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| その他 | 198 | 81 | 490 | 175 | 300 |
| UMS(サービス) | - | 448 | 894 | 1,233 | 2,244 |
| UMS(導入) | - | 93 | 73 | 1,094 | 1,419 |
| 保守 | 591 | 817 | 1,213 | 1,391 | 1,578 |
| SI | 1,144 | 1,635 | 1,226 | 1,713 | 895 |

UMS(サービス)の受注残高計上方法

売上高が基本料金とインセンティブからなるUMS(サービス)は、基本料金部分のみを受注残高として計上

■2009年3月期インセンティブ実績
 通期売上高：614百万円
 2009年3月月額売上高：62百万円/月
 (年換算：744百万円)

▲ 受注残高がUMSを中心に堅調に伸びる (前期比：14.8%増、期初売上予想値対比：44.4%)

2010年3月期決算見通しのポイント

| | | 概算見通し | | コメント |
|----------|------|--------------|--------|---|
| | | 売上高 (前期比) | 売上総利益率 | |
| SI | | 約55億円 (11%増) | 39% | <ul style="list-style-type: none"> ■ リピート中心で微増 |
| 保守 | | 約20億円 (22%増) | 53% | <ul style="list-style-type: none"> ■ 売上総利益率は保守的に想定 |
| UMS | 導入 | 約29億円 (74%増) | 39% | <ul style="list-style-type: none"> ■ 大証FX2009年7月稼動により、数億円の売上を計上予定 ■ FX系を中心にSPRINT導入案件は絶好調 ■ 第2のFXと期待されているCFD※1を新たにラインナップに加える予定 |
| | サービス | 約40億円 (67%増) | 48% | <ul style="list-style-type: none"> ■ 大証FX稼動により売上計上開始。当初半年程度は取引量を保守的に見ており、今期の売上総利益率は低めになると予想 (P23参照) ■ SPRINT各サービス※2が下期後半からサービスインし売上に貢献 |
| その他 (物販) | | 約1億円 (91%減) | 90% | <ul style="list-style-type: none"> ■ 売上計上基準変更に伴い売上高は激減するも、売上のほとんどが利益となる |

※1 CFDとはContract for differenceの略称で、様々な金融商品の差額売買を証拠金によって行う差金決済取引を指します。

※2 当社は、大証FXに参加するFX事業者向けサービスを「SPRINT」大証FX対応版として、「SPRINT」のラインナップとして展開する方針です。

2010年3月期決算トピック（費用、配当）

UMS事業関連の販管費内研究開発費として12億円を計上予定（前期比：2.5億円増）

- 前期に引き続き、UMS事業へ積極的な先行投資を実施予定
- 仮に売上が上振れした場合には、計画値を上回る先行投資を前倒しで実施する見通し

研究開発費を除く販管費として21億円を計上予定（前期比：6.6億円増）

- プロジェクト管理体制の整備や新卒社員の育成のため、採用教育費が増加予定（前期比：約2億円増）
- UMS関連の減価償却費が発生予定（前期比：約2億円増）
- 本社のあるコレド日本橋に段階的に増床、今期中にオフィスを集約予定
⇒ 賃借料の増加（前期比：約0.8億円増）、特別損失に引越し費用として0.7億円計上予定

配当の実施

- 業績連動型、配当性向10～15%
- 一株あたり330円の見込み（前期260円）

第二次中期事業計画 進捗状況

第二次中期事業計画（事業領域）



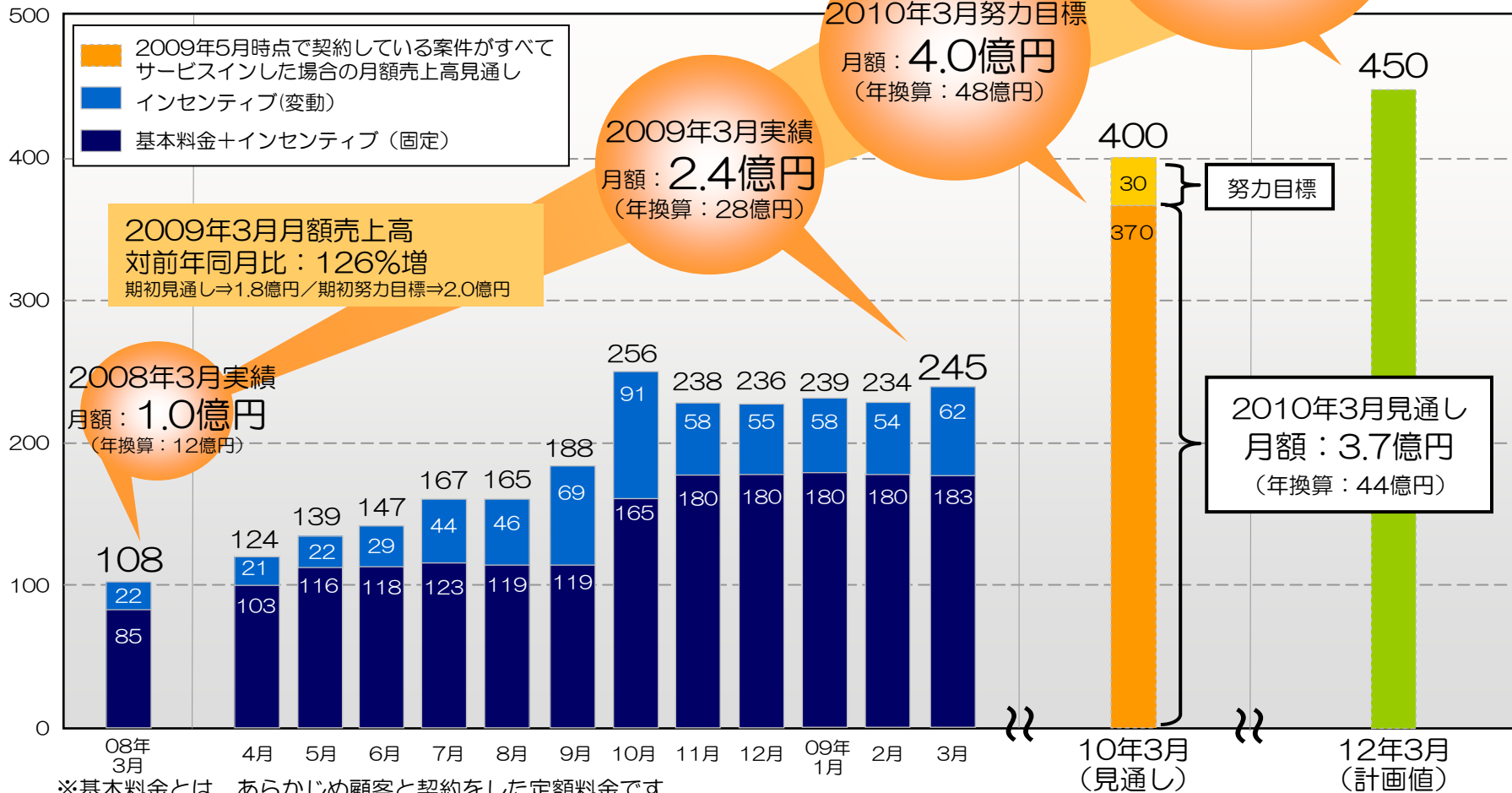
2012年3月期には両事業の売上総利益を30億円台に引き上げる
 金融フロンティア領域のユニバーサル・プレーヤへ

SI事業とは：システム・インテグレーション（System Integration）事業の略称です。

UMS事業とは：ユニバーサル・マーケット・サービス(Universal Market Service) 事業の略称です。

UMS(サービス) 月額売上高の推移

単位：百万円



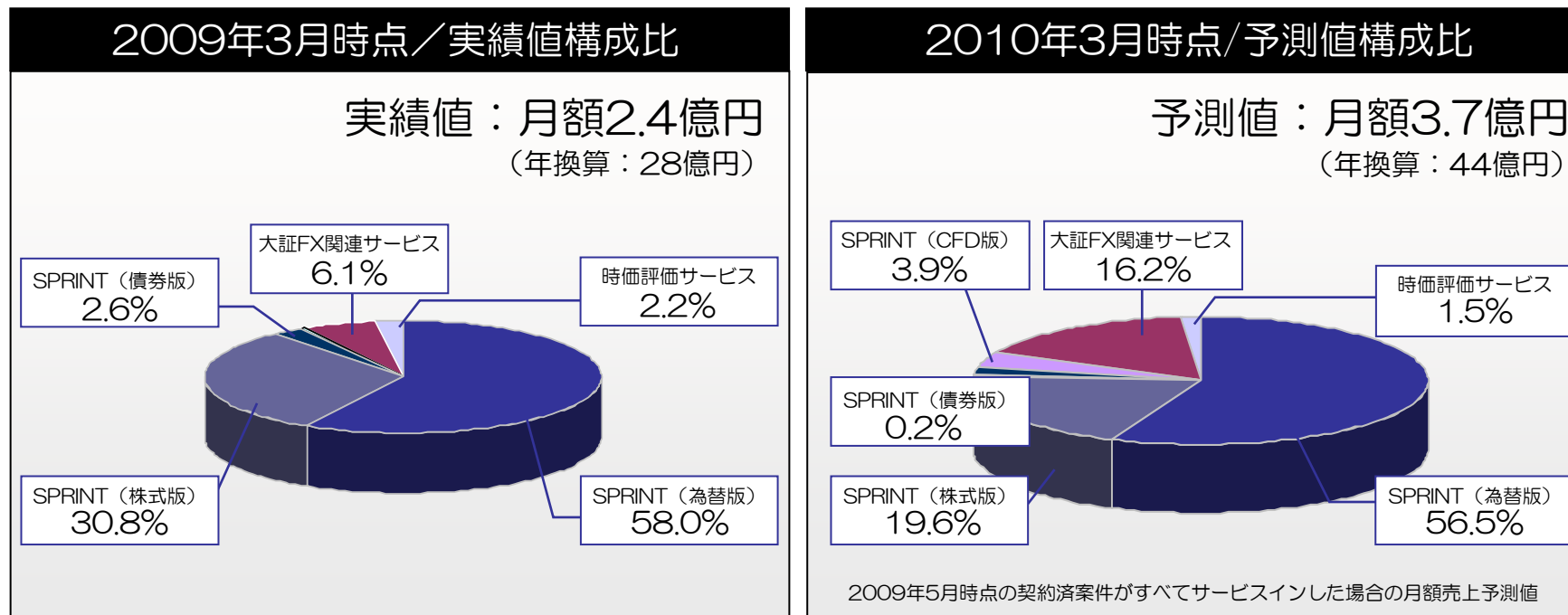
※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

※2010年3月見通しは、2009年5月時点の契約済案件から計上していません。

2010年3月時点 UMS(サービス) 売上予測値



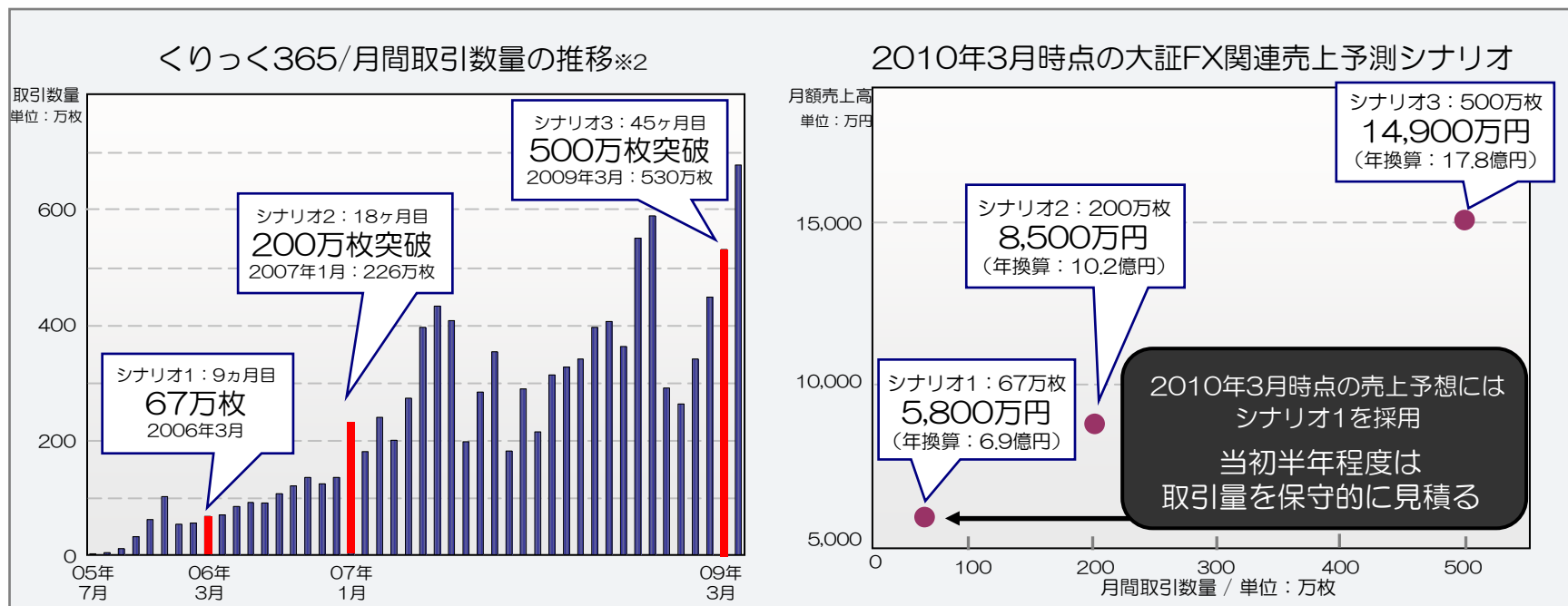
**2009年7月サービスイン予定の大証FX関連の売上が
2010年3月時点のUMS (サービス) 月額売上高に大きく寄与する見通し**

※ 2010年3月時点の大証FXサービスの売上予想値は、取引所向けサービスとFX事業者向けサービスから計上予定の収益を合計した予測値となります。当初半年程度は取引量を保守的に見ており、今期の売上総利益率は低めになると予想しています(次ページ参照)。

2010年3月時点 大証FX関連サービス売上予測について

予測にあたっての前提

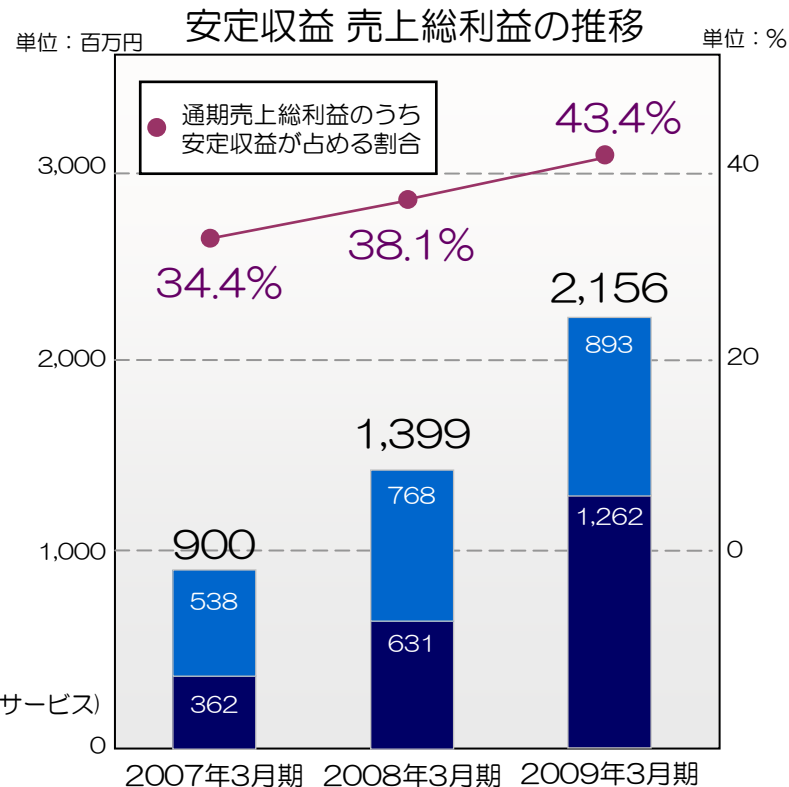
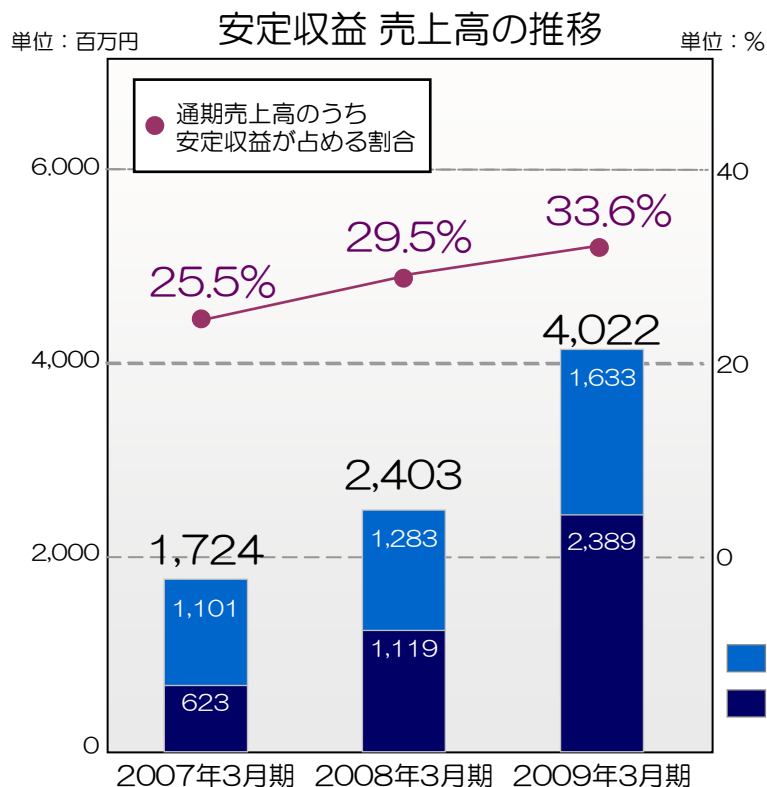
- 取引所向けサービス・FX事業者向けサービスの双方から売上を計上予定
- FX事業者向けサービスからの売上予想については、当社サービスを利用した取引が大証FX取引全体の65%を占めると仮定 ※1
- 売上計上の際、係数となる取引数量には取引所FX取引「くりっく365」の取引実績を参考に当社算出



※1 占有率は、2009年5月時点で当社がサービス提供を予定している合計8社のFX事業者の事業規模から算出しています。

※2 東京金融取引所の「くりっく365 全通貨取引数量/建玉推移」<http://www.click365.jp/statistics/data/monthlyfx.xls>から当社が作成したものです。

安定収益の売上高・売上総利益の推移

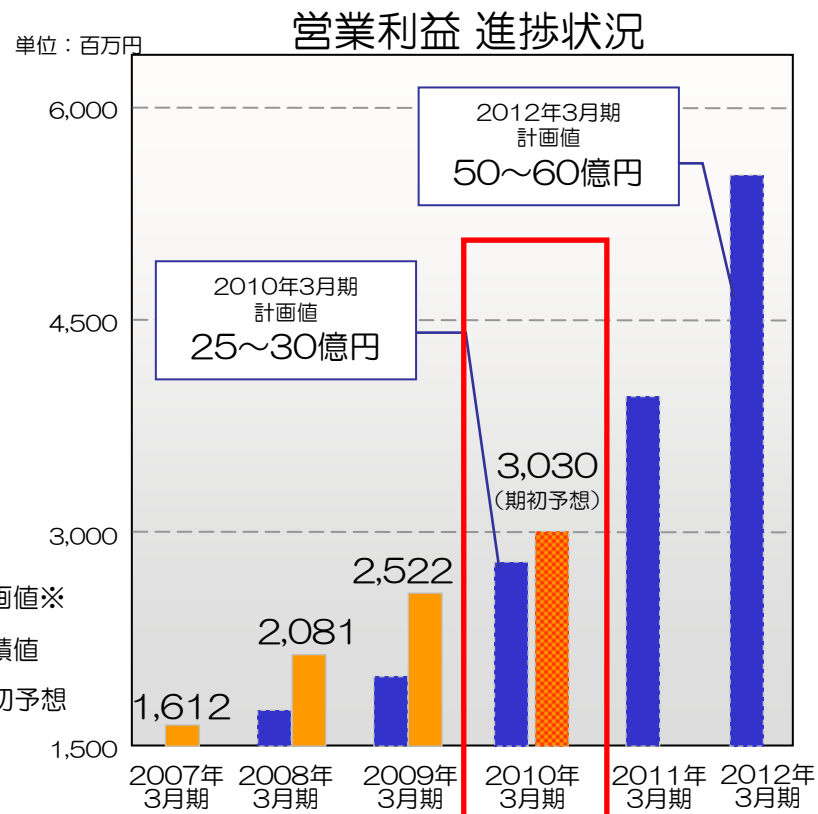
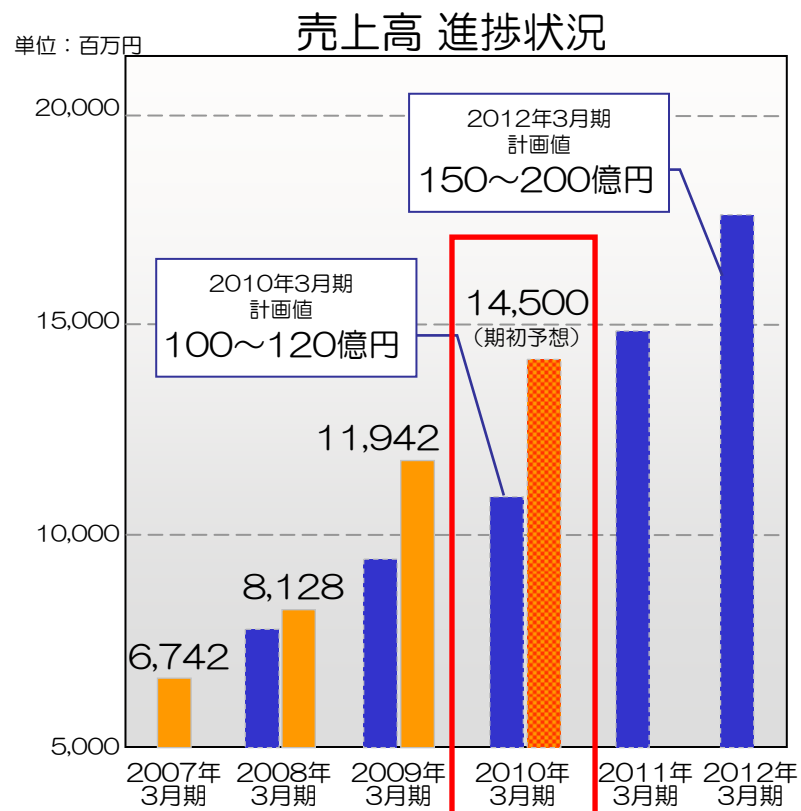


▲ ストック型ビジネスである保守とUMS（サービス）が順調に伸びる

▲ 通期売上高・売上総利益のうち、安定収益が占める割合が増加

※安定収益とは、保守とUMS（サービス）を合計した「ストック型ビジネス」の売上高/利益を指します。

第二次中期事業計画 進捗状況



売上高は1年前倒しのペースで進捗中



利益は計画上限値をわずかに超える予定

※計画値は、2006年11月に策定した第二次中期事業計画の計画値です。

※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

※2010年3月期、2009年3月期の売上高・営業利益の計画値は、上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務（コミットメント）としています。

參考資料

UMS事業 「SPRINT」 導入実績

■ 「SPRINT」 とは；

多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引システム

パソコンや携帯電話を利用して、豊富な金融商品を簡単・すばやく取引できる投資環境を実現

2009年5月現在

| | 対応商品 | | | | | |
|---|---|---|---|------------------|---|---------|
| | 株式 (現物・信用) | 先物・オプション | FX | | | 債券 |
| | | | OTC※1 | くりっく365※2 | 大証FX(仮称) ※3 | |
|  SPRINT Pro スプリント・プロ リッチクライアント PC版 | オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社 | オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社 | ソニー銀行 マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ証券 | △ | インヴァスト証券 (導入中) コスモ証券 (導入中) 上記2社を含む 計10社に導入予定 | △ |
|  SPRINT Mobile スプリント・モバイル リッチクライアント 携帯電話版※4 | オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社 | オリックス証券 松井証券 先物系証券会社1社 | ジョインベスト証券 ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ証券 | △ | △ | △ |
|  SPRINT Basic スプリント・ベーシック ウェブブラウザ版 | △ | ジョインベスト証券 | スター為替 ソニー銀行 三菱商事フューチャーズ証券 大手ネット專業証券1社 ネット專業証券2社 | スター為替 ユニマット証券 | インヴァスト証券 (導入中) コスモ証券 (導入中) 上記2社を含む 計10社に導入予定 | オリックス証券 |

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

△... 今後対応予定の商品・チャンネル

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、SI事業としてコスモ証券に納入しております。

※3 大証FX(仮称) 対応版は、2009年春よりサービス展開予定です。

※4 リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。